

会 記

1993 年度評議員会報告

1993 年 4 月 2 日 16:00~18:00, 信州大学理学部 (松本市).

出席者: <北海道> 久万田敏夫, 高木貞夫, <東北> 安藤喜一, 栗原守久 (奥俊夫代理), <関東> 上野俊一, 渡辺泰明 (編集委員長), 小野正人 (佐々木正己代理), 長島孝行 (青木重幸代理), 大和田守 (本部事務幹事), 石川良輔, 友国雅章 (図書幹事), 梅谷猷二, <東海> 松浦 誠, 阿江 茂, <信越> 富樫一次, <近畿> 石井 実 (庶務幹事), 宮武頼夫, 内藤親彦 (自然保護委員長), 金沢 至, <中国> 中筋房夫 (合併問題幹事), <四国> 久松定成, 酒井雅博, <九州> 湯川淳一 (副会長), 広瀬義躬, 嶋 洪, <委任状提出評議員> 倉橋 弘, 北野日出男, 森内 茂, 前田泰生, <本部> 保田淑郎 (会長), 広渡俊哉 (会計), 篠原明彦 (編集).

I. 会務報告

1) 庶務: 名誉会員馬場金太郎氏 (1 月 6 日), 石原 保氏 (3 月 10 日) が逝去され, 本会からそれぞれ, 会長, 久松定成評議員が葬儀に出席して弔意を表した. 3 月 24 日現在, 会員数 1,305 名 (正会員 1,196 名, 海外会員 36 名, 団体会員 59 名, 賛助会員 6 名, 名誉会員 8 名). 会費 2 年分未納者 39 名, 3 年分未納者 27 名.

日本学術会議第 16 期 (1994 年 7 月 22 日発足予定) 会員の選出に係わる学術研究団体の登録のために, 現在, 役員を対象に履歴調査を実施している.

2) 会計: 1993 年度中間報告の中間報告は 383 ページのとおり.

3) 編集: 1993 年 4 月 2 日 12:00~13:30 信州大学旭会館において, 渡辺泰明委員長, 広瀬義躬, 久野英二, 山根正気の各委員と大和田守, 篠原明彦の両幹事が出席して編集委員会が開かれ, 次のような報告がなされた. ①会誌は 60 巻 4 号と 61 巻 1 号で本論文 40 編, 短報 12 編の計 424 ページを印刷した. ②投稿論文数は, 昨秋以後もあまり伸びず, 3 月 31 日現在の手持ち原稿数は, 編集作業中の 61 巻 2 号掲載分を含め本論文 50 編, 短報 4 編である. ③会誌 60 巻 3 号で募集した不定期刊行物の原稿については, 1 件も応募がなかった.

4) 自然保護委員会: 1993 年 4 月 2 日 13:30~14:30 信州大学旭会館において, 西島 浩, 郷右近勝夫, 渡辺泰明, 阿江 茂, 藤山静雄, 内藤親彦 (委員長), 久松定成, 森本 桂の各委員が出席して今後の活動について話し合った. ①昆虫類保護を目的とした地域選定作業を開始した. ②『日本の昆虫 The Insect of Japan』(仮称) 編集委員会の委員を承認した (議題 4 参照).

5) 合併問題検討委員会: 1993 年 4 月 2 日 11:00~12:00 信州大学旭会館において, 保田淑郎, 湯川淳一, 石井 実, 正木進三, 佐藤正孝, 矢野宏二, 久松定成, 笹川満廣, 三枝豊平, 上野俊一, 中筋房夫, (応動昆側: 藤篠純夫, 天野 洋, 北村実彬, 北野日出男, 志賀正和) の各委員が出席して, 日本応用動物昆虫学会 (応動昆) との第 2 回合併問題検討委員会合同会議が開催された. ①昨年の合同会議での合意にもとづき, 日本昆虫学関連学会連絡協議会を発足させ (1992 年 9 月 25 日), 1993 年信州大学での合同大会において両学会合同のシンポジウム「昆虫学及び関連科学の発展をめざして一学会の合併はメリットをもたらすか」を企画した. ②前回から引き続き検討されてきた合併についての両学会の共通認識を「合併問題検討委員会における討議の基本的考え方」として成文化し, 両学会の評議員会に報告した. ③応動昆側のその後の検討結果: 合併後の学会誌は和文誌 1 誌, 英文誌 1 誌とし, 英文誌は総合的昆虫学の国際誌をめざす. A4 版 2 段組, 年 6 回

発行とし、目次で分野別コンテンツ（ダニ学、線虫学を含む）により論文を分類して掲載する。以上の応動昆虫は昆虫学会側委員によっても了承された。その他の応動昆虫側の討議経過についての報告については、今後両学会で検討を継続することとした。応動昆虫側は、本年 12 月をめぐりに会長への諮問案を作成する予定とのことである。④合併後の学会名については、「日本昆虫学会」となるであろうとの共通認識で一致した。

II. 議題

- 1) 1992 年度決算と会計監査：別表（383 ページ）のとおり承認された。
- 2) 1994 年度予算：別表（383 ページ）のとおり承認された。なお、学会基金による不定期刊行物の印刷費補助については、100 万円を上限として全額を補助することになった。
- 3) 1994 年度第 54 回大会は日本応用動物昆虫学会との合同大会として東京農工大学で 3 月 28 日～31 日に開催する。1995 年度は帯広畜産大学で合同大会を行い、北海道支部が支援することになった。また、1996 年度は中国支部で合同大会を行うことで準備の検討をお願いした。
- 4) 『日本の昆虫 The Insect of Japan』（仮称）編集委員会の委員として、自然保護委員会より、森本 桂（委員長）、倉橋 弘、宮武頼夫、野村周平、山根正気、保田淑郎の 6 氏が提案され、承認された。
- 5) 会則の一部改正：1992 年度の評議員会の議事を受け、会長と評議員の選挙を同時に行うことを骨子とする会則（第 3 章役員）および役員選挙細則の改正案が保田会長より提案され、審議の結果承認された（総会報告付記参照）。なお、改正後の選挙細則 2-(5) について、①投票において同一人を会長、評議員両欄に記名できること、②次期会長が評議員にも当選した場合は評議員の当選を無効とするが、繰り上げ当選とすべき次点者がいない時には当該支部について再選挙を行うことが確認された。
- 6) 会員名簿の作成：前執行部より引き継がれた会員名簿の作成について、執行部より、学会事務センターにアンケート・情報処理・印刷・発送を依頼する案が提起され、承認された。なお、今回作成される会員名簿には勤務先・自宅の 2 住所を収録し、予約をとって有償頒布することになった。
- 7) 交換図書の処分：執行部より、年々増大し相当な量に達した本学会所有の交換図書を国立科学博物館（以下科博）に一括寄贈することが提案され、承認された。寄贈後は、①科博図書との重複分は処分する、②閲覧・複写等の利用は科博の図書係に申し込む、③寄贈後に届く交換図書は定期的に科博に引き渡す、④重要事項が生じた時は本会の評議員会に図ることになる。
- 8) 千葉県立中央博物館の宮野伸也会員より、1994 年 2 月 11・12 日に同博物館で開催予定のシンポジウム『伊豆・小笠原・マリアナ島弧の自然誌』について、後援団体として本会の名称を使用したいとの申し入れがあり、承認された。なお、今後は、名称を貸す程度の後援依頼については、執行部決裁とすることになった。
- 9) 執行部より、現在 55US\$ となっている国外会員の会費について、円立てで 8,000 円とした旨提案されたが、時間切れのため、持ち回り評議員会で審議することになった。

1993 年度総会報告

1993 年 4 月 4 日 11:00～12:00、信州大学教養部。議長：富樫一次評議員。

I. 報告事項

- 1) 会務報告：評議員会報告のとおり。